

1. 略歴

- 1984年3月 成蹊大学文学部英米文学科 卒業
1987年6月 Contemporary British Society Course, School of Oriental and African Studies, University of London 修了
1988年4月 株式会社メディカル・トリビューン 記者
1992年9月 株式会社ジャパン・タイムズ社 記者
2000年6月 Medical Ethics Fellowship Program, Harvard Medical School, Harvard University 修了
2005年3月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了
2008年3月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程修了
博士（保健学）取得（東京大学大学院医学系研究科）
2008年4月 東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE「死生学の展開と組織化」特任研究員
2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座
特任准教授
2017年4月 同 特任教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

臨床倫理学、臨床死生学、医療社会学

b 研究課題

エンドオブライフ・ケアの改善

医療技術が進展し超高齢化が進んだ現代社会におけるエンドオブライフ・ケア（人生の最終段階における医療とケア）のあるべき姿を模索し、現状の改善・充実を目指し、そのために必要な社会の意識改革を促す。

臨床倫理の普及と啓発

日本人のコミュニケーションのあり方などの文化的な特徴を踏まえ、一人ひとりの患者と家族に関する倫理的問題へよりよく応答することが可能な方法論を探り、臨床現場の医療・介護従事者との協働・対話によって、現実の症例の倫理的問題について幅広く検討を深め、現場における実践の知へつなぐ。

臨床死生学の試み

死生学の一側面を「生き終わりを見据えつつより良く生きることを社会のなかで考える学問」と捉え、現実社会の問題として死生学の理解・考察を深め、一般への浸透を図る。

c 概要と自己評価

エンドオブライフ・ケアの改善について

超高齢社会におけるエンドオブライフ・ケアに関して最も一般的かつ深刻な問題に、摂食嚥下困難な高齢者に対する人工的水分・栄養補給法（AHN: artificial hydration and nutrition）の導入・差し控え・中止/終了に関する諸問題がある。これは日本の高齢者医療およびケアにおける長年の懸案であった。先行研究が稀有であったこの分野において、会田は数々の実証研究を推進し、その成果を日本老年医学会の「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として」の策定につないだ。これが同学会ガイドラインとして公表された後は、学会内外において、その趣旨の普及とそれを踏まえた現場での臨床実践の拡大に努めた。数多くの学術集会および講演等において、医療・介護従事者だけでなく一般市民への浸透を目指して継続的に活動した。

また、この課題を本人と家族の側から捉え、本人と家族が医療・介護従事者の助言を得ながら最善の選択に至ることを支援するため作成した『高齢者ケアと人工栄養を考える—本人・家族のための意思決定プロセスノート』の普及に努めた。この冊子は、臨床倫理学における意思決定プロセスと人のいのちの理解についての清水哲郎特任教授の理論および高齢者ケアにおけるAHNに関する臨床現場の実態についての会田の調査研究をもとにして作られた。総じて、AHNに関する研究・実践活動では計画以上の成果を上げることができた。

さらに、これらの成果を踏まえて、慢性腎臓病の専門医療者との協働によって、『高齢者ケアと透析療法を考える—本人・家族の意思決定プロセスノート』を開発し、刊行後は現場の医療者とともに、腎不全看護学会学術集会などで普及啓発のための活動を行った。

いずれのノートも、本人と家族と医療・介護従事者が本人のために一緒に考え共同の意思決定に至ることを支援するためのツールであり、目下、日本の医療界で最も注目されている課題である、ACP (advance care planning) に直接関係する研究開発である。また、これらのノート開発は、本講座関係の若手研究者による当事者研究としての成

果物である『子宮内胎産で悩んでいるあなたへ — 意思決定プロセスノート』（医学と看護社、2017年度末刊行）につながった。

また、2016～2017年度は人生の最終段階の医療とケアの意思決定支援に関して世界的に注目されているACP（advance care planning）の文献研究と学術集会での報告を重ね、本学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上野講座が主催する《医療・介護従事者のための死生学》セミナーや日本各地での講演活動を通して、研究知見を社会還元した。また、ACPの普及啓発に関して、日本老年医学会の学会としての取り組みに関与した。同学会では2018年度中に学会としてのACPの定義化と提言の発表を目指しているが、会田はその取りまとめを行っている。

さらに、10年余の研究課題の1つであるfrailty（フレイル）に関する研究知見の整理と発信にも務め、高齢者の人生の最終段階における過剰医療および過剰医療への対策としての考え方を示した。frailtyに関しては、国内の老年学関係者は介護予防のみに注目しているが、会田はfrailtyが進行した高齢者における適切な医療のあり方について、医療関係者を対象とするセミナーや学術集会等で問題提起し、関心を集めた。会田の講演を契機に、救急・集中治療の現場で実証研究を開始した研究グループもみられた。また、上述のACPのプロセスにfrailtyの評価を組み込むことの重要性に関して医療・介護従事者の理解を求める論文や講演活動も行い、これも臨床現場での実証研究につながっている。しかし、これらは国内では依然として稀少な研究活動であるため、今後、継続的に取り組むことが必要と考えている。

また、高齢者に限らない研究課題として、実証研究をもとに脳死に関する理解を日本の文化的側面も踏まえて深めた。脳死に関する諸問題への対応について専門医療者とともに検討し、社会的に構成される死の概念について日本の臨床現場の実態に基づいて考察し、救急・集中治療現場での患者・家族対応に関する実践知につなぐ。特に、日本小児救急医学会が実践家としての医療者を対象に行う脳死セミナーで、継続してこの課題に関する教育講演の機会を得ることによって、研究知見の臨床現場での活用を実現化した。

これらの研究・実践活動によって、進展した医療技術が汎用される現代の日本において、本人らしい人生の集大成を支援するためのエンドオブライフ・ケアの研究と、その知見にもとづく教育啓発活動を実施することができたと考える。

日本社会では未だに人工呼吸器をはじめとする生命維持治療の終了に対しては医師らの心理的および情緒的障壁が高いが、治療行為は行うことも、差し控えることも、治療開始後でも本人の状態や本人自身の価値によっては治療を終了して看取することも、いずれも治療の選択肢である。この2年間もこの課題に関して現場の医療ケア従事者とともに考える機会を得たことは貴重であり、こうした研究・実践活動は時代の変化に合わせた社会の変革につながっていくと考える。今後はさらに、医療ケア従事者を含めた見送る側の心のケアも含め、本人の人生の集大成を支援するという観点で、医療とケアのあり方に関する考察と理解の深化を図っていくことを目指している。

臨床倫理の普及と啓発について

臨床倫理プロジェクトの活動の一環として、全国各地で医療・ケア従事者のための臨床倫理セミナーを開催し、講義と事例検討の支援をした。2016年度は全国各地で計10回のセミナーを実施し、延べ約1,860名が参加した。2017年度は全国各地で計12回のセミナーを開催し、延べ約2,000名が参加した。会田はすべてのセミナーにおいて、中核となる講義（「臨床倫理入門編」、「事例検討法」など）や事例検討のファシリテーションに関わる支援を行い、また、回を重ねている地域でのセミナーにおいては、アドバンスト・コースにおいて、「フレイル」や「ACP」のトピック講義を行った。さらに、時間的制約が大きい臨床現場で仕事をする医療・ケア従事者のために、簡易版臨床倫理検討シートを開発し、事例検討に際する時間コストの軽減を図ることで、より一層の普及を目指した。

また、2016年度および2017年度にもファシリテーター養成講座を大阪と札幌で開催した。今後も、臨床倫理を一般の医療・介護従事者や市民が理解可能な言葉で表現し、個別症例の倫理問題に多職種協働で具体的に取り組み、現場の実践知とともに高めることを目指している。

さらに、2016年度末には前任の清水特任教授の最終講義を兼ね、シンポジウム「臨床倫理の明日を拓く——本人・家族とともに考える臨床倫理」（参加者約930名）を企画・運営した。これは本講座第二期の総まとめおよび清水特任教授の本講座での集大成として企画した。また、同時に開催したシンポジウムでは、日本の医療界で最重要課題の1つとされているアドバンス・ケア・プランニングについて、国内の各領域のトップリーダーにディスカッションして頂き、ACPを含め臨床倫理の将来を展望した。

臨床死生学の試みについて

当講座の《医療・介護従事者のための死生学》基礎コースにおいて、セミナーの企画・運営と臨床死生学関連の講義を担当し、臨床現場で働く人たちが死生についてどのように理解し、どのようにケアに活かしていくかの研鑽を支援する活動を展開した。

また、年間に10回開催している「臨床死生学・倫理学研究会」を企画・運営し、この分野において研究・実践活動に取り組む研究者や実践家との意見交換の機会を医療・介護従事者および一般市民に提供した。毎回、100名程度が参加し、臨床現場の実態を踏まえて死生学の問題に関して議論した。

今後も、現場で生きる臨床死生学の取り組みを継続し、社会のなかで活かす知の集積・活用を目指したい。

d 主要業績

(1) 著書

共著、会田薫子、『絶対成功する腎不全・PD診療 TRC』（石橋由孝編）、中外医学社、2016.6

共著、会田薫子、『神経内科外来シリーズ3 もの忘れ外来』（丸木雄一編）、メジカルビュー社、2016.9

共著、会田薫子、『スーパー総合医 緩和医療・終末期ケア』（長尾和宏、他、編）、中山書店、2017.2

共著、会田薫子、『生命倫理・臨床倫理と意思決定支援』、『保健医療ソーシャルワーカーアドバンス実践のために』、中央法規出版、2017.6

編著、会田薫子、『医療・介護のための死生学入門』（清水哲郎と共編著）、東京大学出版会、2017.8

共著、会田薫子、『iPS細胞研究—超高齢社会における臨床的意義と倫理的課題』、『科学知と人文知の接点—iPS細胞研究の倫理的課題を考える』、弘文堂、2017.10

共著、会田薫子、『死生学のフィールド』、放送大学教育振興会、2018.3

(2) 論文

会田薫子、『臨床倫理の事例検討法—倫理的姿勢と原則、問題の整理・分析・対応』、『共創福祉』、Vol.11,no.1、pp.681-687、2016.4

会田薫子、『“胃ろう問題”とは何か』、『臨床精神医学』、Vol.45,no.5、pp.681-687、2016.5

会田薫子、『フレイルの知見を臨床に活かし、幸せな“生き終わり”を』、『医療と介護Next』、pp.6-9、2016.10

会田薫子、『人生の最終段階における患者さんの“物語り”を考える』、『デンタルハイジーン』、vol.36,no.12、pp.1296-1297、2016.12

会田薫子、『高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給法の導入を中心として』、『内分・糖尿病・代謝内科』、Vol.43,no.6、pp.531-535、2016.12

会田薫子、『フレイルの知見を死生観教育に活かす』、『精神科』、Vol.32,no.2、pp.116-122、2017.2

会田薫子、『長寿時代の臨床死生学』、『歯界展望』、2017 特別号、pp.38-40、2017.5

会田薫子、『小児救急における意思決定に関する課題』、『救急医学』、Vol.41,no.6、pp.724-729、2017.6

会田薫子、『人生の最終段階と救急医療：脳死と臓器移植』、『救急医学』、Vol.41,no.9、pp.1075-1081、2017.9

会田薫子、『老年医学Q&A 高齢者肺炎における個人の意思やQOLを重視した治療・ケアについて』、『日本老年医学学会雑誌』、Vol.54,no.4、pp.597-600、2017.10

会田薫子、『ACPの背景にある臨床倫理の問題・課題』、『がん看護』、Vol.22,no.7、pp.698-701、2017.12

会田薫子、『高齢患者のための意思決定支援』、『一宮医報』、No.200、p.64、2018.3

(3) 学会発表

国内、招聘講演、会田薫子、『長寿時代のエンドオブライフ・ケア』、第1回鹿児島国際歯学シンポジウム、鹿児島大学鶴岡会館ウィリアムウィリスホール、2016.1.30

国内、招聘講演、会田薫子、『ACPの考え方と実践への示唆—本人を人として尊重する意思決定のために』、日本在宅医学会第一回地域フォーラム in Fukui、福井 AOSSA 県民ホール、2016.4.17

国内、指定講演、会田薫子、『日本老年医学会からの提言・見解に関する講習会—背景と波及効果を中心に—』、『高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として』、第58回日本老年医学会学術集会、石川県立音楽堂、2016.6.8

国内、招聘講演、会田薫子、教育講演6『腎臓専門医と臨床倫理』、第59回日本腎臓学会学術総会、パシフィコ横浜、2016.6.19

国内、招聘講演、会田薫子、主題講演3『救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義』、第29回日本脳死・脳蘇生学会学術集会、帝京大学、2016.6.26

国内、招聘講演、会田薫子、『臨床倫理と意思決定支援』、第21回日本難病看護学会学術集会、北海道医療大学、2016.8.26

国内、指定講演、会田薫子、シンポジウム『胃ろうの果たす役割—胃ろう患者の声をきこう』、『患者さんの幸せの実現をゴールにするPEGの適応—臨床倫理の視点から』、第21回PEG・在宅医療研究会学術集会、かがわ国際会議場、2016.9.3

国内、招聘講演、会田薫子、教育講演1「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、第54回全国大学保健管理研究集会、大阪国際会議場、2016.10.5

国内、招聘講演、会田薫子、教育講演4「高齢者の平穏な最期を支援する医療のあり方—意思決定プロセス・ガイドラインが示すこと」、第40回日本死の臨床研究会年次大会、札幌コンベンションセンター、2016.10.8

国内、招聘講演、会田薫子、「長寿時代の臨床死生学」、第23回日本歯科医学会総会、福岡国際会議場、2016.10.21

国内、指定講演、会田薫子、パネルディスカッション9「いま「脳死」はどこにあるのか：わが国の終末期医療と脳死」、「人生の最終段階における脳死の二重基準の意味と意義」、第44回日本救急医学会学術集会、高輪プリンスホテル、2016.11.18

国内、招聘講演、会田薫子、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—フレイルの知見を臨床に活かす」、第30回日本口腔リハビリテーション学会学術大会、京都市国際交流会館、2016.11.20

国内、会田薫子、交流集会「高齢者ケアと人工透析のベストプラクティスを考えよう!」、「高齢者ケアにおける意思決定支援—ACPにフレイルの知見を活かす」、第19回日本腎不全看護学会学術集会、アジア太平洋トレードセンター(大阪)、2016.11.26

国内、招聘講演、会田薫子、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、第40回徳島県国保診療施設地域医療学会学術集会、徳島県国保会館、2016.11.27

国内、招聘講演、会田薫子、「終末期の意思決定支援ワークショップ」、第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会、久留米シティプラザ、2017.2.5

国内、招聘講演、会田薫子、企画セミナー21「高齢社会の急性期医療」、「高齢者救急医療—フレイルの視点から」、第44回日本集中治療医学会学術集会、さっぽろ芸文館、2017.3.10

国内、招聘講演、会田薫子、シンポジウム2「臓器移植に関連する諸問題」、「脳死下臓器提供と臨床倫理」、日本臨床倫理学会第5回年次大会、昭和大学医学部附属看護専門学校、2017.3.19

国内、指定講演、会田薫子、「高齢者医療における意思決定支援—ACPにフレイルの知見を活かす」、第13回岡山透析看護研究会、倉敷中央病院看護研修センター、2017.5.14

国際、招聘講演、Kaoruko Aita、「End-of-life care for the aged in Japan: artificial hydration and nutrition.」、Aging Science: from Molecules to Society, International symposium "Smart Aging: A shift from the traditional concept of gerontology to modern aging science", Tohoku University、2017.5.24

国内、指定講演、会田薫子、パネルディスカッション2『「最期まで自分らしく」を支えるためのアドバンス・ケア・プランニング—医療倫理の立場から』、第59回日本老年医学会学術集会、名古屋国際会議場、2017.6.14

国内、招聘講演、会田薫子、シンポジウム7「エンドオブライフ・ケアからみた老年精神医学」、「看取り文化の再構築—フレイルの知見を死生観教育を活かす」、ウインクあいち、2017.6.16

国内、招聘講演、会田薫子、「救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義」、日本小児救急医学会「小児における脳死患者への対応セミナー」、聖路加国際大学 臨床学術センター、2017.6.23

国内、招聘講演、会田薫子、シンポジウム「口腔のケア・がん口腔支持療法を推し進めるために—人材を養成する体制から在り方を問う」、「がん患者の人生の尊厳を守ること—がん口腔支持療法を切り口として」、第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸国際展示場、2017.7.28

国内、招聘講演、会田薫子、「急性期看護における倫理的ジレンマと課題」、第48回日本看護学会—急性期看護—学術集会、長良川国際会議場、2017.9.8

国内、招聘講演、会田薫子、「高齢者のエンドオブライフ・ケア総論—治療の選択と課題」、日本エンドオブライフ・ケア学会第1回学術集会、一橋大学一橋講堂、2017.9.16

国内、招聘講演、会田薫子、「人生の終末を悔いなく迎えるために」、第17回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会、とちぎ健康の森講堂、2017.10.7

国内、招聘講演、会田薫子、「高齢者医療の意思決定にフレイルの知見を活かす」、第20回日本腎不全看護学会学術集会交流集会6、アイーナ(いわて県民情報交流センター)、2017.10.22

国内、指定講演、会田薫子、「高齢者医療における意思決定プロセスのあり方」、第45回日本救急医学会学術集会、大阪国際会議場、2017.10.26

国内、指定講演、会田薫子、「エンドオブライフ・ケアにおけるフレイル評価の必要性」、第45回日本救急医学会学術集会、リーガロイヤルホテル大阪、2017.10.26

国内、招聘講演、会田薫子、「その人らしい人生の最期を支えるために—医療・介護現場に必要な臨床倫理」、第36回日本認知症学会学術集会、石川県立音楽堂、2017.11.26

国内、会田薫子、「ACP にフレイルの知見を活かす—よりよい高齢者医療のために」、第 29 回日本生命倫理学会大会、宮崎シーガイア・コンベンションセンター、2017.12.16

国内、招聘講演、会田薫子、「高齢者医療—フレイルの知見を臨床に活かす」、日本腎不全看護学会 第 12 回トピック研修 『治療選択に関する特別研修』、昭和大学病院、2018.3.4

(4) 会議主催 (チェア他)

国内、「第 1 回関西臨床倫理セミナー/「医療・介護従事者のための死生学」基礎コース冬季セミナー」、その他、大阪市立総合医療センターさくらホール、2016.12.18

国内、「冬季特別臨床倫理事例検討会」、その他、東京大学文学部一番大教室および二番大教室、2017.1.11

国内、シンポジウム「臨床倫理の明日を拓く」、実行委員長、東京大学 安田講堂、2017.3.4

国内、「第 29 回日本生命倫理学会年次大会」、実行委員、宮崎シーガイア、2017.12.16~2017.12.17

国内、「“引き算”の医療：本当の手厚さへの模索—“足し算”と長寿時代のエンドオブライフ・ケアを考える」、実行委員長、2018.3.18

(5) マスコミ

「最期の医療」、『朝日新聞、朝刊』、2016.5.1

「愛する人たちと作っていく人生 — それこそが“グッドライフ”」、映画「君がくれたグッドライフ」のパンフレット、2016.5.21

「終末期の医療 延命を望みますか」、『週刊ダイヤモンド』、p62-63、2016.8.6

「終わりを認められない患者と家族、医師」、『週刊東洋経済』、p49、2016.9.24

「肺炎 終末期は緩和ケアも」、『読売新聞、朝刊 14 面』、2017.4.16

「私たちの最期は」、『共同通信』、2017.4.27

「人工呼吸器を外すとき ~医療現場 新たな選択~」、NHK「クローズアップ現代」、2017.6.5

「透析見送りや中止 47%」、『読売新聞、朝刊 27 面』、2017.6.18

「ニッポンの宿題「最期の時 どんな形で ~看取る側の意識改革も必要」」、『朝日新聞、朝刊 13 面』、2017.7.8

「望ましい最期 模索」、『毎日新聞、朝刊 3 面「クローズアップ」』、2018.1.9

「蘇生判断 現場任せ」、『読売新聞、朝刊 3 面「スクヤナー」』、2018.2.14

「インタビュー「胃ろうバッシングで生じた歪みを考える」」、『日経メディカル』、2018.3.2

「延命方針の参考に」、『上毛新聞』、2018.3.4

「栄養管理 認知症の終末期」、『日経メディカル』2018 年 3 月号 特集「終末期医療」、2018.3.10

「終末期医療を考えるフォーラムに 130 人」、『愛媛新聞』、2018.3.31

(6) 教科書

「高齢者のエンドオブライフ・ケアと延命医療の選択」、『内科 高齢者医療ハンドブック』、会田薫子、執筆、南江堂、2018

(7) 共同研究(産学連携除く)賞

国内、参画、日本緩和医療学会、「学会「鎮静ガイドライン」改訂」、2017~2018

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義

非常勤講師、上智大学、「社会老年学」、2016.4

特別講演、福岡神経難病ケア研究会、「人生の最終段階の医療とケア—意思決定支援を考える」、2016.4

特別講演、千葉県救急医療研究会、「救急医療の死生学—脳死、心臓死」、2016.4

特別講演、岐阜県立多治見病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「ジョンセンの 4 分割法による事例検討とは」、2016.4

特別講演、葛飾区医師会、「認知症とリビングウィル」、2016.4

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「事例検討法ステップ 1&2」、「臨床倫理エッセンシャルズ」、「フレイルの知見を臨床に活かす」、2016.5

特別講演、宮崎県医療ソーシャルワーカー協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2016.6

非常勤講師、岡山大学歯学部、「これからの高齢者医療とケア」、「高齢者医療と人工的水分・栄養補給法」、2016.7

セミナー、諏訪中央病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2016.7

セミナー、仙台臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「事前指示からアドバンス・ケア・プランニングへ」、2016.7

特別講演、かわさき市民アカデミー、「人生の最終段階の医療とケア」、2016.7

特別講演、東京都立多摩総合医療センター、「臨床倫理—長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2016.7

特別講演、日本老年医学会、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2016.7

特別講演、東京慈恵会医科大学医学部、「臨床倫理 理論と事例検討法」、2016.8

特別講演、独立行政法人国立病院機構中国四国グループ、「臨床倫理の基礎—看護倫理を現場で活かす」、「事例検討法」、2016.8

非常勤講師、早稲田大学、「医療とメディア」、2016.9

特別講演、琉球大学医学部・医学系研究科、「研究倫理・生命倫理の Faculty Development」、2016.9

特別講演、岐阜県立多治見病院、「事例検討の進め方」、「終末期における人工的水分・栄養補給法」、2016.9

特別講演、相模原市高齢者福祉施設協議会、「高齢者の終末期の臨床倫理—人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2016.9

特別講演、公益社団法人 岩手県看護協会、「看護専門職論—看護倫理・臨床倫理、意思決定支援」、2016.9

セミナー、北陸地区臨床倫理事例研究会・金沢大学医学部附属病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「ACP—意思決定の支援」、2016.9

特別講演、政策課題研究会、「高齢者の終末期医療の諸課題」、2016.9

セミナー、県民健康プラザ鹿屋医療センター、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2016.10

特別講演、栃木県鹿沼市・日光市・栃木県看護協会県西地区支部、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—自分らしい生き残り方を求めて」、2016.10

特別講演、岐阜大学医学部附属病院がんセンター・緩和ケアセンター、「みんなで倫理を学ぼう！現場で活かす臨床倫理」、2016.10

特別講演、千葉県美浜区連携の会、「ACP にフレイルの知見を活かす—高齢者ケアの意思決定支援」、2016.10

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2016.10

セミナー、関西臨床倫理研究会、「事例検討法」、2016.10

特別講演、独立行政法人地域医療推進機構 (JCHO) 東京高輪病院、「臨床倫理—臨床現場での治療選択・意思決定プロセスを考える」、2016.10

非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、科目名「「高齢社会総合研究学特論Ⅷ (高齢社会の人文学・社会科学)」における「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2016.11

特別講演、金沢大学医学部・北陸認知症プロフェッショナル養成プロジェクト、「終末期の医療とケアの倫理」、2016.11

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「事例検討法ステップ 1&2」、2016.11

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「高齢者ケアにおける意思決定支援—ACP にフレイルの知見を活かす」、2016.11

特別講演、岩手医科大学、3 学部第一学年合同「全人的医療基礎講義」特別講義「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2016.12

セミナー、愛媛地区臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「事例検討法ステップ 1&2」、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2016.12

特別講演、日本大学松戸歯学研究科、「長寿時代の臨床死生学」、2017.1

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2017.1

特別講演、埼玉県社会福祉協議会、「認知症の方のエンドオブライフ・ケア—フレイルの知見を臨床に活かす」、2017.1

セミナー、諏訪中央病院看護部、「臨床倫理の事例検討—問題の整理と分析」、2017.1

特別講演、諏訪中央病院、「高齢者の意思決定支援」、2017.1

特別講演、回生病院、「長寿時代における認知症のエンドオブライフ・ケア」、2017.2

特別講演、六病院研究会、「高齢者ケアにおける意思決定プロセスについて」、2017.2

セミナー、諏訪中央病院看護部、「臨床倫理の事例検討—問題の整理と分析」、2017.2

特別講演、株式会社 学研、「臨床倫理入門—臨床現場における医療・ケアスタッフに必要な姿勢を考える」、2017.2

特別講演、日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2017.3

セミナー、ちくごかんわ研究会・久留米大学病院緩和ケアチーム、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2017.3

特別講演、済生会兵庫県病院、「臨床倫理の基礎」、2017.3

特別講演、東京慈恵会医科大学医学部、「臨床倫理 入門編」、2017.5

特別講演、関越病院、「高齢者の平穏な最期を支援する医療のあり方—意思決定プロセス・ガイドラインが示すこと」、2017.5

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「事例検討法ステップ1&2」、2017.5

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2017.5

特別講演、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、2017.6

特別講演、国立がん研究センター、「人生の最終段階の医療とケア—高齢者が自分らしく生き抜くことを支える」、2017.6

非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、科目名「「高齢社会総合研究学概論Ⅰ」における「人生の最終段階の医療」」、2017.7

非常勤講師、慶應義塾大学、「"Death and Dying: End-of-life care for elderly adults in Japan"」、2017.7

非常勤講師、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、科目名「「高齢者歯科学」における「長寿時代の臨床死生学」」、2017.7

非常勤講師、岡山大学歯学部、「これからの高齢者医療—フレイルの知見を臨床に活かす」、「高齢者医療と人工的水分・栄養補給法—食べられなくなったらどうしますか」、2017.7

セミナー、岩手県臨床倫理研究会、「臨床倫理：事例検討の進め方」、2017.7

セミナー、東北大学医学部、「臨床倫理エッセンシャルズ 事例検討の進め方」、「簡易版臨床倫理検討シートの使い方」、2017.7

特別講演、関西医科大学附属病院看護部、「高齢患者のためのよりよい意思決定支援—ACPにフレイルの知見を活かす」、2017.7

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理入門」、2017.7

特別講演、伊勢崎佐波医師会・群馬県医師会、「リビングウィルからACPへ—意思決定を支援する」、2017.7

セミナー、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「臨床倫理にもとづく意思決定支援」、「臨床倫理検討シートによる要点の整理と考え方」、2017.7

セミナー、諏訪赤十字病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 事例検討の進め方」、2017.8

特別講演、独立行政法人国立病院機構中国四国グループ、「看護倫理」、2017.8

非常勤講師、早稲田大学、「医療とメディア」、2017.9

特別講演、日本精神科病院協会、「認知症のエンドオブライフ・ケア」、2017.9

セミナー、金沢大学医学部附属病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 事例検討の進め方」、「簡易版臨床倫理検討シートの使い方」、2017.9

特別講演、九州山口臨床倫理 AtoZ、「高齢者のがん治療における適切な治療選択に向けて—老年学の立場から」、2017.9

特別講演、栃木県西健康福祉センター、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—自分らしい生き終わり方を求めて」、2017.9

特別講演、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、2017.9

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定を支援する」、2017.9

非常勤講師、岩手医科大学、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2017.10

特別講演、富山県立中央病院、「救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義」、2017.10

セミナー、愛媛地区臨床倫理研究会、「臨床倫理の事例検討 問題の整理・分析・対応」、「事例検討 上級編① ステップ1&2とワーク」、2017.10

特別講演、公益社団法人 岩手県看護協会、「看護倫理」、2017.10

セミナー、佐久総合病院、「臨床倫理の事例検討—問題の整理・分析・対応」、2017.10

特別講演、公益社団法人 石川県看護協会、「長寿時代の意思決定支援—ACPにフレイルの知見を活かす」、2017.10

非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、科目名「「高齢社会総合研究学特論Ⅷ」における「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—意思決定支援とACP」」、2017.11

セミナー、関西臨床倫理研究会、「事例検討の進め方 ステップ1&2と新ワークシートの使い方」、2017.11

特別講演、公益社団法人 神奈川県看護協会、「食べられなくなったらどうしますか？ 高齢者のエンドオブライフ・ケアを考える」、2017.11

セミナー、一般社団法人 栃木県訪問看護ステーション協議会、「高齢者の人生の最終段階を支援する医療のあり方」、「事例検討法」、2017.11

特別講演、鳥取大学医学部附属病院、「救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義」、2017.11

セミナー、関西臨床倫理セミナー実行委員会、「フレイルと臨床倫理—高齢者医療を考える」、2017.12

特別講演、八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会、「長寿時代の高齢者医療—自分らしい生き方と生き終わりのために」、2017.12

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2017.12

特別講演、公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団、「延命医療を終了するということ—よりよい人生の集大成のために」、2017.12

特別講演、栃木県安足健康福祉センター、「人生のエンディングを自分らしく迎えるために—あなたと大切な人の生き終わりを考えてみませんか」、2017.12

特別講演、済生会川口総合病院、「人生の最終段階の医療とケア—高齢者が自分らしく生き抜くことを支える」、2018.1

特別講演、NPO 法人 あがつま医療アカデミー、「人生のエンディングを自分らしく迎えるために」、2018.1

セミナー、関西臨床倫理事例研究会、「臨床倫理検討シート ステップ 1&2 の書き方のファシリテーション」、「カンファレンス用ワークシートを使用した事例検討のファシリテーション」、2018.1

セミナー、関西臨床倫理事例研究会、「臨床倫理 事例検討の進め方」、2018.1

特別講演、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、2018.1

特別講演、山口・吉南地区地域ケア連絡会議・山口市介護サービス提供事業者連絡協議会、「長寿時代の意思決定支援—フレイルの知見を ACP に組み込む」、2018.1

特別講演、諏訪中央病院、「臨床倫理と高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2018.1

特別講演、独立行政法人国立病院機構岡山医療センター、「臨床倫理エッセンシャルズ」、2018.1

セミナー、諏訪中央病院看護部、「臨床倫理 事例検討の意義と進め方」、2018.1

特別講演、沖縄県立中部病院、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—フレイルの知見を臨床に活かす」、2018.1

特別講演、一般社団法人 一宮市医師会、「高齢者のための意思決定支援—ACP にフレイルの知見を組み込む」、2018.2

特別講演、栃木県県南健康福祉センター、「エンドオブライフ・ケア—その人らしい人生を支えるために」、2018.2

特別講演、公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院、「人生の最終段階における臨床倫理」、2018.2

特別講演、一般社団法人 丸亀市医師会、「高齢者ケアにおける意思決定—“最後まで自分らしく”を支えるために」、2018.2

特別講演、鹿児島県がん看護研究会、「高齢者のエンドオブライフにおける倫理的課題と対応」、2018.2

特別講演、東京女子医科大学看護学部、「透析療法を受ける高齢者の治療選択と意思決定」、2018.3

特別講演、高知県・高知市病院企業団立高知医療センター救命救急センター、「エンドオブライフ・ケアの意思決定支援」、2018.3

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2018.3

特別講演、済生会川口総合病院、「人生の最終段階の医療とケア—高齢者が自分らしく生き抜くことを支える」、2018.3

セミナー、ちくごかんわ研究会・久留米大学病院緩和ケアチーム、「Advance Care Planning にフレイルの知見を活かす」、「事例検討の進め方：カンファレンス用ワークシートの使い方」、2018.3

特別講演、地方独立行政法人 市立東大阪医療センター、「人生の最終段階における臨床倫理」、2018.3

特別講演、社会医療法人 石川記念会 HITO 病院、「終末期医療とケア—高齢者が最期まで本人らしく生きることを支援するために」、2018.3

(2) 学会

国内、日本老年医学会、監事

国内、日本生命倫理学会、理事

国内、日本医学哲学・倫理学会、理事

国内、日本透析医学会、倫理委員会委員

国内、日本脳死・脳蘇生学会、理事

国内、PEG・在宅医療学会、学術評議員

国内、日本救急医学会、高齢者救急委員会委員、研究倫理委員会委員

国内、日本緩和医療学会、鎮静ガイドライン WG 委員

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

日本専門医機構外部評価委員会、委員

生活介護ネットワーク、理事